

I

1 1960年代から1990年代前半まで、課徴金支払い免除により、豚肉生産量、輸出量、生きた豚の輸出頭数が増加した。GATTのウルグアイラウンド交渉では、安価な穀物を大量に輸出する米国などにより農作物の貿易自由化が推し進められ、EUの課徴金制度が見直された。

（121字）

2 国内では、豚が集約的に飼育され排泄物に含まれる窒素が多量に排出されたため、地下水や河川の汚染が環境問題となった。国外では、豚コレラやインフルエンザ、豚熱などの家畜や人への感染症を世界各地に拡大させることや、飼育時に投与する抗生物質によって薬剤耐性菌を発生させる可能性が高まる問題を生んだ。（145字）

3 増加傾向だった豚肉生産量、輸出量は1990年代前半に下落した。2000年代以降は漸増傾向の一方で、生きた豚の輸出頭数は急増している。多くの養豚家が、家畜による過度な窒素の排出に対応するため、肥育経営から子取り経営や一貫経営に方針を転換したと考えられる。（123字）

II

1 都市の拡大と自動車の普及により、都市内の自動車による移動が一般的になると、もとは歩行者中心だった道路は隣接する建物の立ち退きなど用地の取得が困難なため、同じ幅のまま大部分が車道となり、歩行者は道路の端の狭い歩道に追いやられてしまうことが多いから。(124字)

2 自動車の走行が中心になり歩行者が軽視された世界。(25字)

3 フーヴァーダムからの電源をもとにカジノを中心としたリゾート地として発展してきたが、観光産業への依存からの脱却と、乾燥気候であるためこれ以上の都市規模が拡大した際の水源の確保が課題となっている。(97字)

4 Nは経済の中心として国内最大級の都市であり、早くから地下鉄が発達し輸送量も多く、近年は都心部の再開発により高層ビルが多数建設されている。一方、政治機能に特化したWは景観維持のため建造物の高さ制限があり、自動車交通を前提に発展してきた。またNよりも都市規模が小さく、地下鉄の建設は遅く輸送量も小さい。(150字)

III

1 ODA や民間資金の流れは、政治的な利益誘導や先進国の企業の利潤が優先され、途上国の一部の支配者層に利益が偏りやすい。外国からの送金は、それをそのまま送り主の家族が受け取り家計の支えとなるため、貧困層の生活の改善や地域経済の活性化につながりやすい。

（123 字）

2 外国からの送金の増加が国内消費を増加させ、また高度な技術を身につけた者が帰国して国内で還元することで国内産業の発展が見込める。一方、高度人材が流出してしまうと国内の人的資源の質の低下を招き、特定の産業で生産性が低下し経済成長が鈍化する懸念がある。（124 字）

3 ベトナム フィリピンと A 国ともに、国内の生産年齢人口が多く、雇用が不十分である。2010 年代半ばに急増した A 国からの移民は、拡充された技能実習制度を利用して技術習得後、数年間で帰国する傾向にある一方、フィリピンからの移民は、労働で得た資金を出身家族に送金する目的で長期間にわたり居住する傾向にある。（148 字）